

● 日本の主な火山活動

口永良部島では 18 日 12 時 17 分頃に噴火が発生し、口永良部島の東海上で、噴火に伴う小さな噴石及び降灰が確認された。また、18 日 16 時 31 分と 19 日 09 時 43 分にもごく小規模な噴火が発生した。今後も、5 月 29 日と同程度の噴火が発生する可能性がある。

大きな噴石の飛散及び火砕流の流下が切迫している居住地域では、厳重な警戒（避難等の対応）が必要である。

箱根山では、29 日 07 時 32 分から約 5 分間の火山性微動が発生し、同日 12 時 45 分頃には大涌谷の北から北東にかけて最大約 1.2 km の範囲で降下物を確認した。その後の調査で大涌谷において新たな噴気孔が確認された。30 日に実施した現地調査では、29 日に確認した噴気孔周辺で火山灰等の堆積による盛り上がりを確認され、ロープウェイ大涌谷駅付近で降灰を確認した。これらのことから、大涌谷で 29 日夜から 30 日朝にかけてごく小規模な噴火が発生したと判断し、30 日 12 時 30 分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 3（入山規制）に引き上げた。

今後も小規模な噴火が発生する可能性があるため、大涌谷周辺の概ね 1 km の範囲では小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。また、風下側では火山灰や小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。

桜島の昭和火口では、爆発的噴火が 64 回発生するなど、活発な噴火活動が継続した。

桜島内の伸縮計では、1 月 1 日頃から山体の膨張と考えられる変化が継続している。昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要である。

西之島では、海上保安庁等の観測によると、噴火による噴石等の堆積や溶岩の流出が継続し、新たな陸地の拡大が続いている。今後も新たに形成された陸地にある火口で噴火活動が継続すると考えられる。また、西之島周辺の海底で噴火が発生する可能性も引き続き考えられ、噴火による影響が海上まで及んだ場合、弾道を描いて飛散する大きな噴石や、水面を高速で広がるベースサージ等の影響が概ね 2 km の範囲に及ぶおそれがあるため、西之島の中心から概ね 4 km 以内では噴火に警戒が必要である。

吾妻山では、大穴火口付近直下を震源とする火山性地震が増減を繰り返しながらやや多い状態で経過している。また、大穴火口からの噴気活動はやや活発な状態が継続している。大穴火口から概ね 500 m の範囲では小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

草津白根山では、湯釜付近の膨張を示す地殻変動が認められている。湯釜火口内北東部や北壁及び水釜火口の北から北東側に当たる斜面で熱活動の活発な状態が継続しており、北側噴気地帯のガス成分にも活動活発化を示す変化がみられている。湯釜火口から概ね 1 km の範囲では、小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

浅間山では、4 月下旬頃から山頂直下のごく浅い所を震源とする体に感じない火山性地震が多い状態が続いている。また、二酸化硫黄の放出量が 11 日から急増した。

これらのことから、浅間山では火山活動が高まっていると考えられ、火口周辺に影響を及ぼす小規模な噴火が発生する可能性があることから、11 日 15 時 30 分に火口周辺警報を発表し噴火警戒レベルを 1（活火山であることに留意）から 2（火口周辺規制）に引き上げた。

その後、16 日及び 19 日に山頂火口でごく小規模な噴火が発生した。

19 日の噴火以降、噴火は発生していないが、火山ガスの放出量が多い状態が続いているなど、火山活動は引き続き高まった状態で経過している。今後も火口周辺に影響を及ぼす小規模な噴火が発生する可能性があるため、山頂火口から概ね 2 km の範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

御嶽山の火山活動は低下した状態が続き、昨年（2014 年）10 月以降噴火が発生していないことから、昨年 9 月 27 日と同程度の噴火の可能性は低下していると考えられる。

これらのことから、26 日 17 時 00 分に火口周辺警報を発表し噴火警戒レベルを 3（入山規制）から 2（火口周辺規制）に引き下げた。

しかしながら、弱いながらも噴煙活動や地震活動が続いていることから、昨年 9 月 27 日より規模の小さな噴火が今後も突発的に発生する可能性は否定できない。

火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

阿蘇山の中岳第一火口では、今期間、噴火は観測されなかった。火山性微動の振幅は、消長を繰り返しながら、概ね大きな状態で継続した。

中岳第一火口では火山活動が停滞する傾向がみられるものの、活発な火山活動が続いていることから、

中岳第一火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

霧島山（新燃岳）では、火山性地震は概ね少ない状態で経過した。北西数 km の地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2013 年 12 月頃から伸びの傾向がみられていたが、2015 年 1 月頃から停滞している。火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

諏訪之瀬島の御岳火口では、今期間、噴火は観測されなかった。御岳火口は、長期にわたり噴火を繰り返しており、今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

蔵王山では、2015 年 4 月に御釜周辺が震源と推定される火山性地震が増加し、火山活動が活発になったが、5 月下旬以降は地震の少ない状態で経過している。火山性微動は 5 月 17 日を最後に観測されていない。また、これまでに行った現地調査や上空からの観測等では、御釜周辺と丸山沢噴気地熱地帯をはじめ想定火口域（馬の背カルデラ）内に特段の変化は確認されていない。

これらのことから、蔵王山では噴火の発生する可能性が低くなったと判断し、16 日 09 時 00 分に噴火予報を発表し、火口周辺警報（火口周辺危険）から噴火予報（活火山であることに留意）に引き下げた。

2013 年以降、火山性地震の増加や火山性微動の発生が観測されており、2014 年 10 月以降はわずかな膨張を示す地殻変動が観測されるなど、長期的にみると火山活動はやや高まった状態にあるので、今後の火山活動の推移に注意が必要である。

三宅島では、火山ガス放出量は、長期的に減少傾向にあり、2013 年 9 月以降は 1 日あたり 500 トン以下で経過している。また、山頂浅部を震源とする地震は概ね少ない状態で経過していることから、三宅島では噴火が発生する可能性は低くなったものと考えられる。

これらのことから、5 日 14 時 00 分に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 1（活火山であることに留意）に引き下げた。

しかし、火口内での噴出現象が突発的に発生する可能性があるため、山頂火口内及び主火孔から 500 m 以内では火山灰噴出に警戒が必要である。また、火山ガスの放出が継続していることから、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があるとして予想される地域では警戒が必要である。

表 1 6 月 30 日現在の火山現象に関する特別警報・警報・予報等の発表状況
(※印のついた火山は火山現象に関する海上警報も発表中)

特別警報・警報・予報	噴火警戒レベル及びキーワード	該当火山
噴火警報	レベル 5（避難）	口永良部島※
火口周辺警報	レベル 3（入山規制）	箱根山、桜島
	入山危険	西之島※
	レベル 2（火口周辺規制）	吾妻山、草津白根山、浅間山、御嶽山、阿蘇山、霧島山（新燃岳）、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	硫黄島※
噴火警報（周辺海域）	周辺海域警戒	福徳岡ノ場※
噴火予報	レベル 1（活火山であることに留意）	雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、有珠山、北海道駒ヶ岳、秋田焼山、岩手山、秋田駒ヶ岳、安達太良山、磐梯山、那須岳、新潟焼山、焼岳、富士山、伊豆東部火山群、伊豆大島、三宅島、九重山、雲仙岳、霧島山（御鉢）、薩摩硫黄島
	活火山であることに留意	上記以外の活火山

*噴火警戒レベルは、その活用が地域防災計画等で予め定められており、レベル毎の防災対応がキーワードで示されている。



図 1 6 月 30 日現在、火山現象に関する特別警報、警報及び火山現象に関する海上警報発表中の火山

各火山の 6 月の活動解説

【北海道地方】

めあかんだけ 雌阿寒岳 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意)]

4 月以降、ポンマチネシリ火口付近の浅い所を震源とする、微小な火山性地震がやや多い状態が継続していたが、6 月以降は徐々に減少している。

全磁力連続観測によると、ポンマチネシリ 96-1 火口近傍の地下では、2015 年 3 月中旬以降熱活動が活発化している可能性がある。今後の火山活動の推移に注意が必要である。

とちあだけ 十勝岳 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意)]

15 日から 18 日にかけて実施した現地調査では、赤外熱映像装置により、62-2 火口内の南側と振子沢噴気孔群で地熱域の広がり観測された。62-2 火口周辺の一部では熱活動が次第に高まっている可能性が考えられる。

ここ数年、山体浅部の膨張、大正火口の噴煙量増加、地震増加、火山性微動の発生及び発光現象などが観測されており、長期的にみると十勝岳の火山活動は高まる傾向にあるので、今後の火山活動の推移に注意が必要である。

たるまえさん 樽前山 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意)]

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

山頂溶岩ドーム周辺では 1999 年以降、高温の状態が続いているので、突発的な火山ガス等の噴出に注意が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

アトサヌプリ [噴火予報 (活火山であることに留意)]

たいせつざん 大雪山 [噴火予報 (活火山であることに留意)]

くつたら 倶多楽 [噴火予報 (活火山であることに留意)]